

## 令和4年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(明戸小学校)

### 平均正答率

#### 1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
明戸小	上回った 62.5	上回った 64.6	下回った 63.0	下回った 54.9	下回った 61.4	上回った 64.7
埼玉県	62.1	56.2	63.8	63.0	63.0	59.8

#### 2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
明戸小	6-C	7-B	7-B	4-A	5-A	7-B
埼玉県	6-C	6-A	7-A	5-B	6-C	6-A

#### 3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び (学力レベルの昨年との差 例 ; 6-B→7-C=2 )

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
明戸小		0	-1		0	2
埼玉県		0	3		1	1

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		明戸小	埼玉県	明戸小	埼玉県	明戸小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	87.5	79.6	70.2	82.1	78.2	85.5
	・はっきりあいさつをすることができる	78.1	75.8	73.0	75.6	73.9	77.7
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	84.4	81.9	67.5	83.2	95.6	84.5
学習習慣	・勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える	59.4	49.5	35.1	74.7	60.9	51.7
	・勉強をするときは、最初に計画を立ててから始める	62.5	42.3	40.5	41.6	56.5	44.3
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	68.5	54.4	45.9	60.1	65.1	60.6
学習策の関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	40.6	24.4	13.5	19.5	17.4	19.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	81.3	67.2	86.5	70.5	87.0	75.2
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	84.4	75.5	75.6	72.8	95.7	63.5
ICTの活用	・昨年度の国語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	9.4	18.6	8.1	18.3	26.0	19.5
	・昨年度の算数の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	3.1	14.6	8.1	13.4	8.7	14.8
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	28.1	24.3	27.0	24.4	39.1	24.0
その他	・自分には、よいところがある	84.4	79.9	67.5	78.2	69.6	77.6
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	78.1	76.8	72.9	77.7	95.7	75.3
	・将来の夢や目標をもっている	84.4	86.9	94.6	87.3	87.0	81.9

### 【質問紙分析】

- 4年生と6年生は、よい学習習慣が身に付いていることがわかる。
- どの学年も将来に向けて努力しようという意識が高いことがわかる。
- 家庭学習でのタブレットPCの利用率が県平均より高いといえる。
- 授業でのタブレットPCの利用を推進していく必要がある。
- 学習習慣や自己有用感の達成率に課題が見られる学年があり、改善が必要である。

## 伸びが見られた学級・教科での取組

### 【学級】

- ・ 6年1組（旧5年1組）では、学級会での話し合い活動を中心に、友達を大切にしようという雰囲気を醸成することができた。それにより、子供たちが安心して学習に取り組めた結果だと考えられる。

### 【国語】

- ・ 5年1組（旧4年1組）は、学力レベルの伸びそのものは0であったが、絶対値が7-Bで、県のレベルを2上回っている。これは、読書タイムや給食の待ち時間などを利用して読書活動を推奨し、子供たちがそれによく応えた結果だと考えられる。

### 【算数】

- ・ 6年1組（旧5年1組）の算数では、少人数指導において習熟度別グループ編制を多く実施した。それにより、伸びる児童を十分に伸ばすと共に、低位の児童の躓きにも一人一人丁寧に対応することができた結果だと考えられる。

## 一人一人をより伸ばすための取組

- ・ 伸びが見られた算数で行っている習熟度別学習集団編制（少人数学習）の効果的な（学習内容や児童の実態に合わせて最適化を図った）活用場面を職員研修で共有し、学校全体で学力の底上げを図ると共に、伸びる力のある児童の更なる伸長を目指す。
- ・ 正答数毎の人数分布を見ると、中間層が少なく上位と下位に分離する傾向があるので、個別最適化した課題プリント等を用意し、下位層の底上げを図る。
- ・ 用語や概念（定義）の理解が曖昧にならないよう、問題提示の場面の、特に内容を説明する際に、元々の定義にまで触れるよう心掛ける。
- ・ 日常生活であまり使わない用語や日常生活で使用される際の意味が正式な定義と比べて曖昧な用語（「直径・半径」、「時刻・時間」、「最大公約数・最小公倍数」、「向かい合う〇〇・対応する〇〇」、…）など、意図的に繰り返し使用したり意味を確認したりして、着実な定着を図る。
- ・ 授業におけるタブレットPCの活用方法を工夫・共有し、分かりやすい授業および楽しく練習できるドリル学習、自ら学ぶためのツールとしての活用等を学校全体で推進する。
- ・ 学校行事等での活躍場面を意図的に設定したり、様々な場面ヒーローを積極的に称賛するようにして、児童の自己有用感を高めるようにする。